

## 2 三鷹市教育委員会の実施した「学習定着度調査」の分析

三鷹市立第一小学校 4年

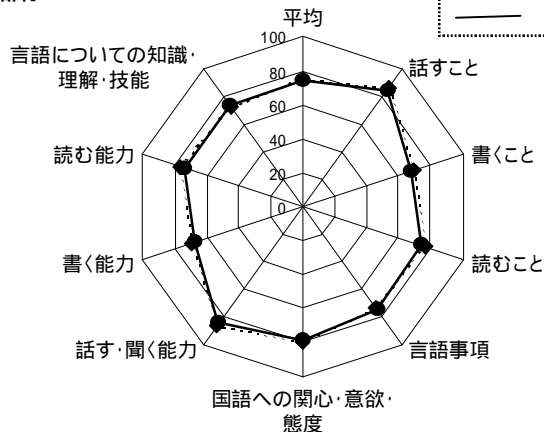
### (1) 国語

	データから見た特徴	分析内容
全体正答率	ほぼ期待正答率とおなじ正答率である。市の平均的な正答率と比較しても、ほぼ平均並み。	6割強の児童は市の平均的な正答率を上回っている。国語に対する関心意欲が高い児童が多いことがわかる。
内容別正答率	漢字の書きについては、市の平均を上回り、読みについてはほぼ平均通りである。しかし、物語文や説明文の読み取りは市の平均から3ポイント、聞き取りは2ポイント下回っている。	正答率の低いのは物語や説明文の内容の読み取りである。日頃より読解指導に力を入れるとともに、金曜日の朝 読書など読書指導の充実も引き続き図る必要がある。また作文に関する設問に無回答の児童が多く、苦手意識が読み取れる。
観点別正答率	知識・理解・技能では市の平均を上回っている。関心面についてはほぼ市の平均と同じである。しかし、話す・聞く能力と書く能力では市の平均点から2ポイント、読む能力では3ポイント近く下回っている。	書く能力は市の正答率に近いが、話す聞く能力と読む能力について市の正答率よりかなり低い。特に読む能力については、他教科にも大きく影響するだけに早急に改善に取り組む必要がある。
期待正答率に達しない児童の割合	期待正答率に達しない児童は3割強。しかし、各クラス3割近い児童は90パーセント以上の正答率あげている。	国語に対する関心意欲が高い児童が多いが、反面3割強の児童が期待正答率に達していない。成績下位の児童への指導の強化を図る必要がある。

### (2) 算数

	データから見た特徴	分析内容
全体正答率	・全体では、期待正答率より4.4ポイント上回り、市の平均より3ポイント下回っている。	・期待正答率は越えているが、市の平均に比べると、少々劣る。基本的な知識は確実に押さえる授業を行うことがこれからも必要となる。また、教師や児童自身が苦手をしている所を知り、その克服に向けた授業の展開や、言葉かけを考えていく必要がある。
内容別正答率	・数と計算領域では、期待正答率より5ポイント上回り、市の平均より2.3ポイント下回っている。 ・量と測定領域では、期待正答率より4.4ポイント上回り、市の平均より2.2ポイント下回っている。 ・図形領域では、期待正答率より1.7ポイント上回り、市の平均より6.6ポイント下回っている。	・特に図形領域を苦手をしている児童が多いので、具体物を使って活動させる授業や、図形を多面的にとらえられるような授業を展開していく必要がある。 ・計算領域や数量関係については、今後も習熟の時間をしっかりととり、力をつけていく。
観点別正答率	・感心・意欲・態度の面では、期待正答率より4.8ポイント上回り、市の平均より3.9下回っている。 ・数学的な考え方面では、期待正答率とほぼ同じで、市の平均より3.5ポイント下回っている。 ・表現・処理の面では、期待正答率より5.7ポイント上回り、市の平均より2.2ポイント下回る。 ・知識・理解の面では、期待正答率より5.1ポイント上回り、市の平均より2.2ポイント下回る。	・関心・意欲・態度の面では、児童が興味をもつような問題設定や、導入の工夫、発表のさせ方を工夫した授業をこれからも考えていく必要がある。 ・数学的な考え方については、自力解決の時間を十分にとり、既習の事項を活用することによって算数の問題が解けることがわかる授業や声かけをしていく必要がある。 ・知識・理解については、児童の能力を教師がしっかりと把握し、指導を行っていく必要がある。
期待正答率に達しない児童の割合	・期待正答率に達しない児童は2割強。ほとんどの児童が70%以上の正答率だが、20%~30%の正答率の児童が多少いる。	「努力を要する」2割の児童は正答率がきわめて低い。習熟度別少人数指導を基盤に、学習内容の定着をはかる指導体制、指導方法を工夫する必要がある。

【国語】



【算数】

